

根性桜

加藤 誓 (ちかい)

岐阜県の「桜の天然記念物」は「根尾の薄墨桜」や「飛騨の臥龍桜」が有名であるが、大野町に「揖斐二度桜」があると 同町育ちの大学同期生が自慢していた。前者の大きな古木の立派な桜ではなく、そこらにある桜に見えるが、この桜は「満開の花の中心からまた花が出てくる、珍しい桜」なのだそうだ。



先に咲いた花を突き破るように二度目の桜が咲くのである。ただ、どの花でも起きる訳ではない。じーと探さないと見つからないのだそう。同期生が根気よく観察し見つけた花の写真を送信してもらった。

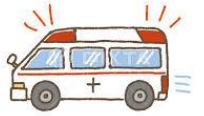


以前、同じような現象のバラを見たことがある。バラの花を貫いて葉や花が咲くのである。調べてみた。「慣性花」と言うのだそう。ひまわりなどの花にもあるそうだが、バラ科が多いとか。桜は、バラ科である。



話はコロッと変わる。

お袋は、親父亡き後20年間、92歳まで中津川の実家で一人頑張っていたが、平成26年春、家の中で転び、1時間後ヘルパーさんが発見し、救急車搬送。腰を打ち3か月間入院。その後同市のリハビリ病院で3か月間歩行訓練。



脊椎損傷で回復が難しいのではと思い、私の近くの「グループホーム」に27年正月に入所させることにした。車椅子・ベッドの生活を想定していたが、リハビリ病院の皆様のお蔭と、お袋の頑張りで、何とか掴み歩きが出来るまで回復していた。その後順調に回復し、少しおぼつかないが何とか普通に歩けるまでになった。施設の皆様のお蔭で、食事美味しく、笑顔で楽しい生活をおくっていた。

28年初夏 ベッドから降りる時転倒。大事にはならなかったが、暫く腕の痛みが続いた。

ベッド下にセンサーを付け真夜中のトイレ時も施設の方が見守ってくれていたが転ぶのは一瞬でどうしようもない。

平成30年夏、トイレに行く時転倒。今度は、右腕を骨折。整形外科病院で手術をする。施設の方の介助もあるが幸い左利きで治るまでの生活に大きな支障はなかった。

お袋の「害のない認知症」は 痛みを感じずるのも忘れ、不安も忘れ、暫くすると骨折したことすら忘れてしまい、何事もなかったかの様にまた楽しい生活に戻っていく。



令和元年夏、施設行事の「花火大会」に私も一緒に参加した。

楽しい夢を見たのか、その夜ベッドの柵を乗り越え転倒。

今度は、大腿骨骨折。市内の病院で手術し成功。

しかし、その時血栓が脳に飛び半身不随となって帰ってきた。

その後、流動食も食べなくなり、覚悟をした。

11月から1か月間、毎日プリンを食わせに施設に通った。

無理やり食わせた。その甲斐あってか、食欲が出てきてゼリー食ならOKとなった。しかし片麻痺のため、何を言っているが分からない。

そのため訪問回数もだんだん減ってきた。施設の方は毎日接しているので、何を言っているか分かるらしい。顔半分の笑顔が愛らしいとも言ってくれている。

その後、新型コロナウイルスで施設の訪問もしづらくなり、知らせがないのは元気な証拠とやせ我慢。ゼリー食だけの毎日がもう1年半も続く。

令和3年4月3日 満百歳を迎えた。



二度咲き桜どころか、何度咲き桜か、花の中から花が咲く根性桜。

満開なお袋を見た。